

The background of the slide is a light blue gradient. It is decorated with numerous water droplets of various sizes, some with soft shadows, giving it a fresh and clean appearance. The droplets are scattered across the top and bottom edges, with a few in the center.

たんば水ビジョン2055

(丹波市水道事業ビジョン) の策定について

(諮問)

1.水道事業ビジョン

1) 水道事業ビジョンとは

厚生労働省から、安全で強靱な水道の持続に資することを目的に策定することが推奨されている、50年、100年先の将来を見据えた理想像を明示する計画。

具体的には、

- ① 水道事業の現状評価・課題
- ② 将来の事業環境
- ③ 地域の水道の理想像と目標設定
- ④ 推進する実現方策
- ⑤ 検討の進め方とフォローアップ

といった内容の記載が想定される。

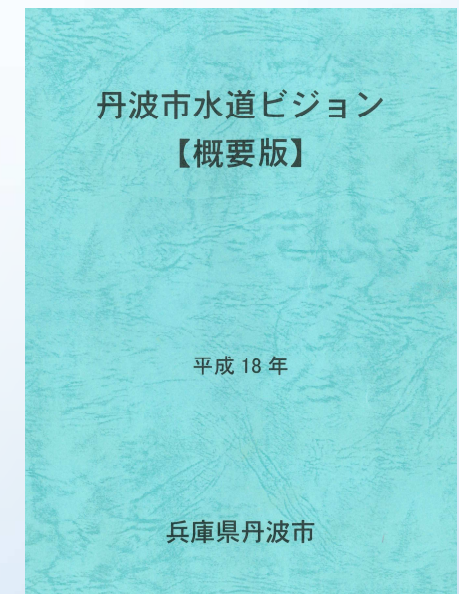
1.水道事業ビジョン

2) 丹波市水道ビジョン

策定年月：平成18年3月

目標年度：平成27年度

主 旨：施設を統廃合（廃止・新設・機能増設）することで、
市内全域の水融通、ランニングコストの削減、施設整備
レベルの平準化（向上）、安全で安心な水の安定供給、
事業会計事務の最適化、料金格差の是正等を目指す。



丹波市水道ビジョン = 丹波市水道施設
統廃合整備計画

1.水道事業ビジョン

3) 丹波市水道ビジョンの進捗

○施設の統廃合（廃止・新設・機能増設） …… 一部未完了

上垣浄水場の機能増設、氷上中央、西芦田、山南浄水場の新設は完了しているが、大嶋、多利浄水場等廃止予定とした施設が、水需要が想定よりも減少していないため、現在も廃止できていない。

○料金格差の是正・市内全域の水融通 …… 一部未完了

「丹波市中央上水道事業（柏原・氷上・青垣・春日）」、「丹波市山南上水道事業」、「丹波市市島上水道事業」の3事業への事業統合は完了しており、事業間の料金格差の是正も統一料金への段階的な料金改定により完了している。

ただし、各事業間をつなぐ水道管が未整備であり、丹波市全域の水融通は実現していない。

2.丹波市水道事業の現状と課題

1) 丹波市の現状

	平成16年度 (2004)	令和5年度 (2023)	令和42年度 (2060) 予測値
給水人口	73,247人	60,289人	33,595人
日最大配水量	31,526m ³	25,374m ³	21,178m ³
有収率	72.8% ※簡水除く	74.5%	67.3%
浄水場	32箇所	17箇所	ビジョンで 決定する
配水池	60箇所	52箇所	

現在から約40年後、人口は44%減少を見込むが、配水量は16%の減少に留まる予測。
これは有収率の低下が原因であり、現在でも配水量の約1/4が漏水等の収入にならない水となっている。

2.丹波市水道事業の現状と課題

2) 丹波市の課題

人口減少や施設更新需要ピークの到来、自然災害の頻発等水道事業を取り巻く環境が厳しさを増す中で、丹波市水道事業における大きな課題として、以下の2点が挙げられる。

①人口規模に見合わない水道管の長さ

田畑や山に囲まれた小さな給水区域（集落）が多いため、人口の割に水道管が長い。

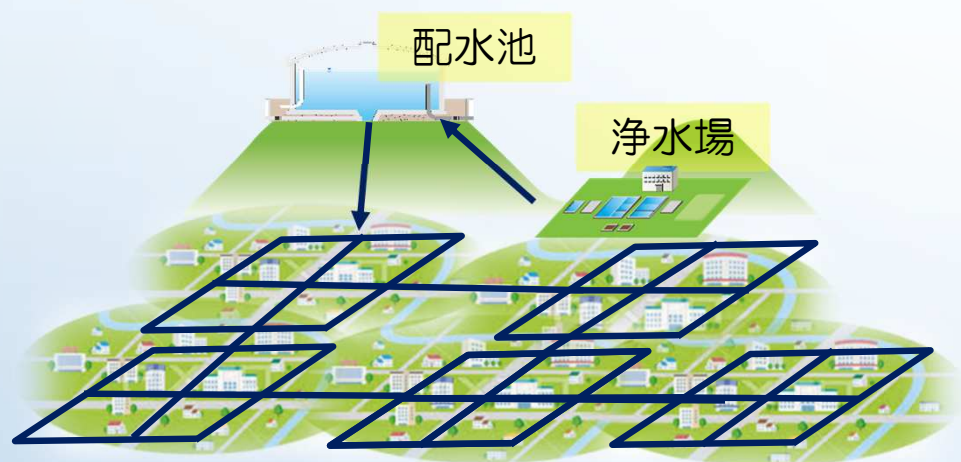
②人口規模に見合わない水道施設の多さ

高低差が大きく、また山に囲まれた小さな給水区域（集落）が多いため、人口の割に加圧ポンプ場や配水池等の水道施設が多い。

2.丹波市水道事業の現状と課題

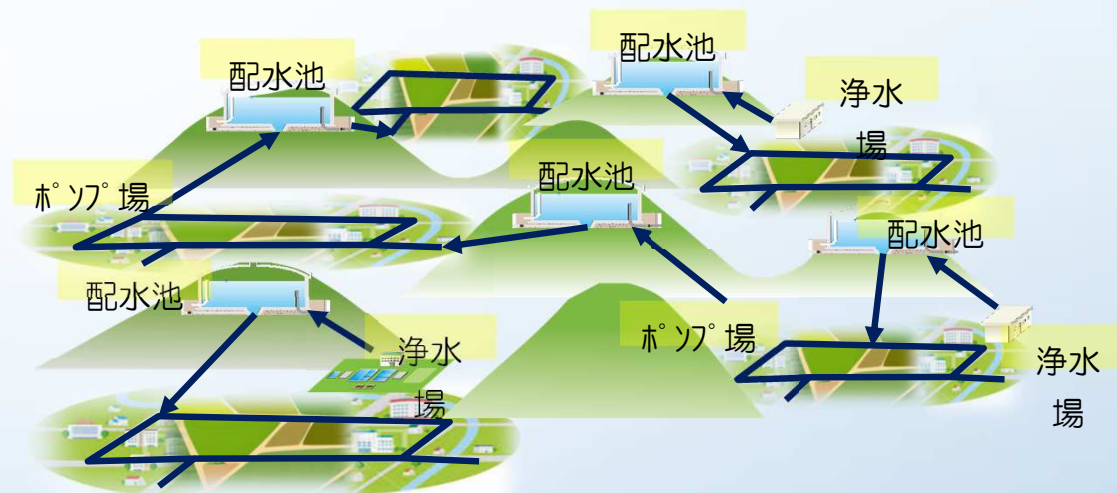
3) 都市部と中山間部の管路・施設の違い

【都市部】 阪神間など



家や工場等が密集していて管路の効率が良い。
大規模な施設で広い範囲へ配水していて施設が少ない。

【中山間部】 但馬・丹波など



家が田畑等を挟んで分散していて管路の効率が悪い。
分散する集落ごとに水道施設があるため施設が多い。

2.丹波市水道事業の現状と課題

4) 管路の老朽化

管路更新計画に基づく計画的な老朽管更新を実施しているが、老朽化のペースに更新ペースが追いつかない。



2.丹波市水道事業の現状と課題

4) 管路の老朽化

管路更新計画に基づく計画的な老朽管更新を実施しているが、老朽化のペースに更新ペースが追いつかない。

令和5年度から10年後、毎年5Kmペースで更新工事を行っても……

うちR1～R15
更新距離
77.4Km



うち法定耐用年数
40年経過 (R15時点)

427Km



管路 (口径75mm以上)
895Km

(R5末時点データ)

2.丹波市水道事業の現状と課題

4) 管路の老朽化

管路の老朽化による漏水が市内で多発しており、その多くは
前述の配水管ではなく給水管での漏水である。



	R1	R2	R3	R4	R5
有収率	77.0%	78.8%	79.0%	76.7%	74.5%
漏水修繕 件数	298件	257件	245件	302件	328件
漏水修繕費	6,320万円	6,049万円	5,728万円	7,669万円	9,150万円

2.丹波市水道事業の現状と課題

5) 施設の老朽化

管路同様、水道施設も老朽化している。

水道施設は、建物を除き、ポンプや水処理機器、操作盤等比較的耐用年数の短いものが多い。

重要機器を中心に更新を行っているが、数多くの施設を抱える中ではすべてを更新するには限界があり、故障すれば断水等大きな影響がある機器は、少しでも不具合があれば緊急に修繕している。



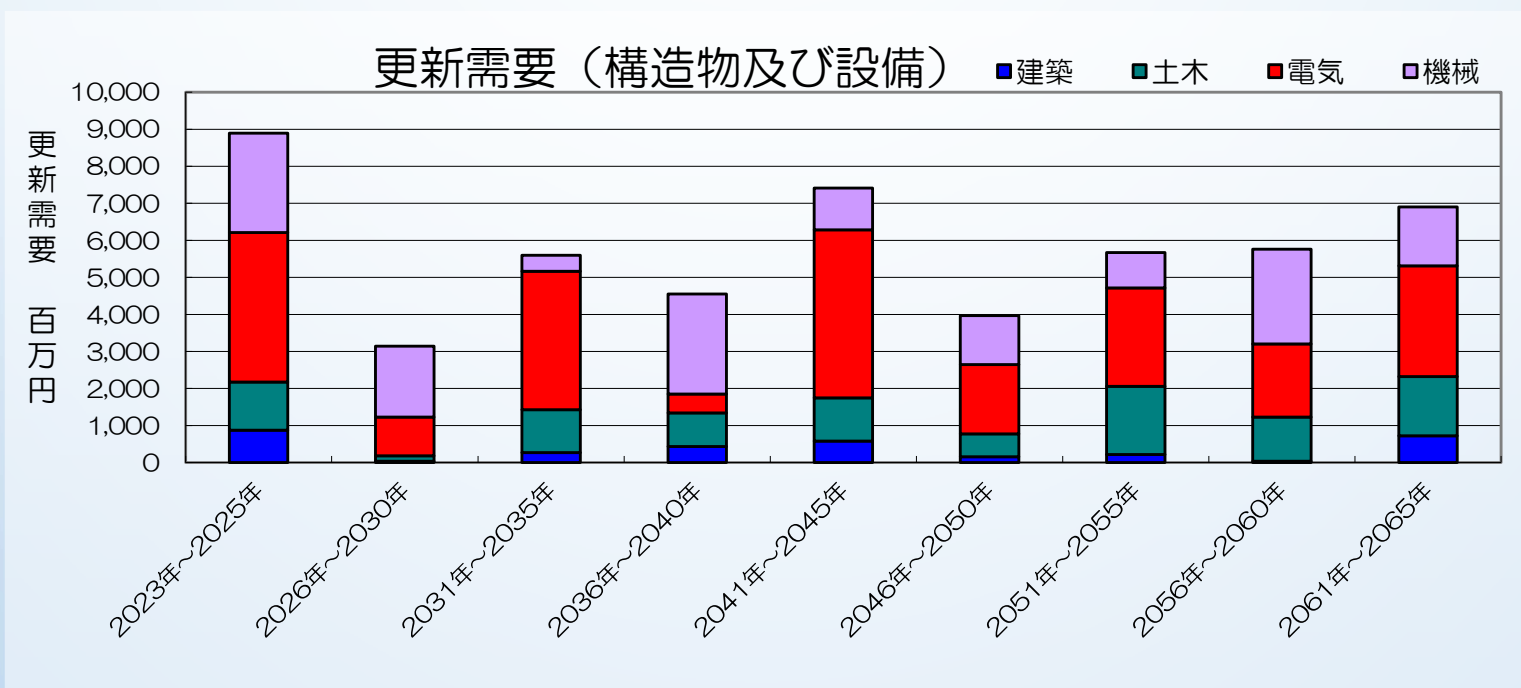
	R1	R2	R3	R4	R5
故障報告 件数	144件	213件	170件	184件	193件
緊急修繕 件数	81件	76件	76件	93件	72件
緊急修繕費	2,365万円	3,070万円	3,482万円	4,856万円	2,996万円

2.丹波市水道事業の現状と課題

5) 施設の老朽化

施設の分類ごとに法定耐用年数から更新需要を見ると、既に耐用年数を超過しているものが多いため、直近で約90億円の費用が必要となる。

今後も、5年ごとに30億円以上の更新費用が発生し続ける。



2.丹波市水道事業の現状と課題

6) 赤字経営

管路・施設の更新需要が高まる一方で、経営面は、令和5年度決算で約1.5億の純損失、平成30年度から6期連続での赤字となっている。

(収益的収支 百万円)

	H30	R1	R2	R3	R4	R5
収益	1,937	1,884	1,876	1,855	1,825	1,788
うち給水収益	1,418	1,387	1,309	1,384	1,212	1,356
費用	2,002	1,972	1,915	1,859	1,966	1,947
うち減価償却費	1,072	1,071	1,066	1,057	1,019	1,007
純利益	△ 65	△ 88	△ 39	△ 4	△ 141	△ 159

2.丹波市水道事業の現状と課題

6) 赤字経営

水道事業は公営企業会計であり、原則水道料金収入のみで経営しなければならない。

収益的収支（3条）



補てん財源
(内部留保資金)

資本的収支（4条）



補てん財源
の充当

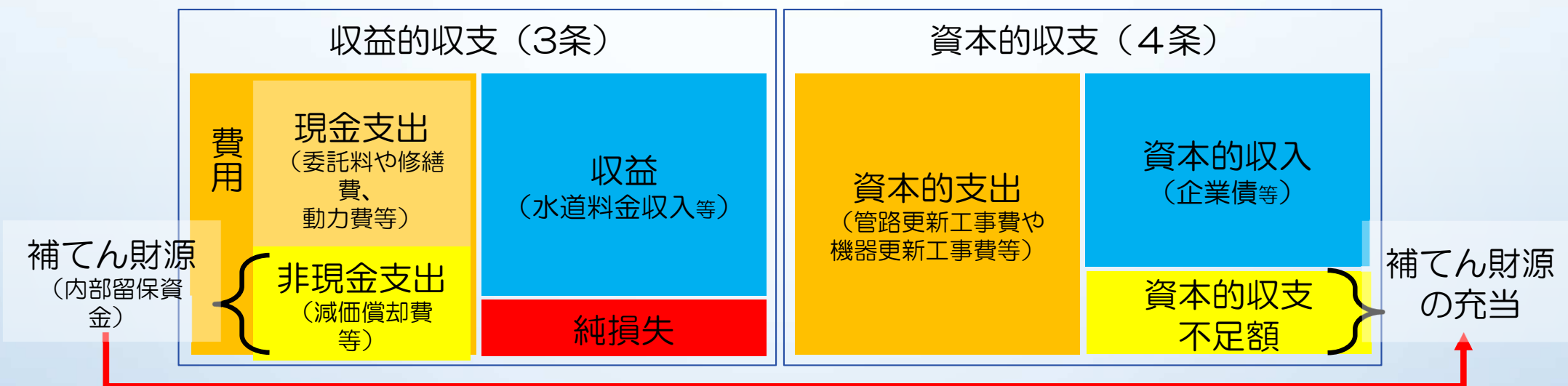
資本的収支不足額は、1年間の収益的収支で発生した非現金支出等の補てん財源で補う。

純利益（黒字）がある場合は、その分も補てん財源にできるが、

2.丹波市水道事業の現状と課題

6) 赤字経営

水道事業は公営企業会計であり、原則水道料金収入のみで経営しなければならない。



資本的収支不足額は、1年間の収益的収支で発生した非現金支出等の補てん財源で補う。

純利益（黒字）がある場合は、その分も補てん財源にできるが、**純損失（赤字）の場合は、補てん財源となる分の利益がない。**

赤字続きでは資金が減少し、工事費に充てる企業債（借金）が増え、将来負担が増加する。

3.たんば水ビジョン2055

1) 策定の目的

水道の主目的は、水道法第1条の「清浄にして豊富低廉な水の供給を図り、もって公衆衛生の向上と生活環境の改善とに寄与すること」であり、水道事業の継続はそのまま市民生活の継続である。

生活の上で欠かせない水道水は、蛇口を回せば出るのが“あたりまえ”。

氷上郡の水道がはじまってから、丹波市となった今日までの世代が享受してきたこの“あたりまえ”を、次世代の“あたりまえ”として引き継いでいくことは、今を担う我々の責務である。

現状と課題を踏まえ、“あたりまえ”の存続が危ぶまれる今、丹波市水道事業の継続を第1目標とする水道ビジョンとして「たんば水ビジョン2055」を策定する。

3.たんば水ビジョン2055

2) 計画期間

令和8年度（2026）から令和37年度（2055）

※5年ごとのフォローアップ

丹波市水道事業を継続していくためには、水道に関わるすべての人の思いの共有と協力が
必要不可欠であり、解決困難と思われる大きな課題に、ともに立ち向かっていかなければなら
ない。

たんば水ビジョン2055では、目標年度を策定から30年後とし、50年から100年後まで
の将来を見据えた理想像を示し、そこに向かう羅針盤の役割を持つ計画とする。

3) 計画の位置づけ

なお、たんば水ビジョン2055で描く30年間のうちの10年分を切り取り、より詳細な計画としての基本計画もあわせて策定する。



3.たんば水ビジョン2055

4) 基本理念

水と生きる、たしかな未来

まごころ
～ 次世代へつなぐ 丹の水 ～

命の根源である水。生きるための源である水。

この水について、いまを生きる人が未来を思う心を“丹（まごころ）”とし、流れる水のように、過去からいま、そして未来へと“あたりまえ”の水を次世代へ確実につないでいく意志を込めて、「水と生きる、たしかな未来 ～次世代へつなぐ丹の水～」を基本理念としました。